

十字路

命と経済の両立。これが経済政策を語る上での決まり文句になっている。しかしかなり難しい課題だ。経済活動が回復してくれば、成長率が高まる一方で、新型コロナウイルスの感染リスクも大きくなってくる。そうであれば、命と経済は両立というより、どちらに重きを置くかという選択と考えた方がよい。

あえて両立を目指すというなら、爆発的な感染を回避しながら経済成長を実現する、と言い換えることになるのか。ただ実際には、経済成長に軸足が置かれ気味だ。7

経済成長だけで解決できない

9月期の経済成長率は、前期比プラス5・0%と立派な高成長となった。それでも、米国と比べて低いとの評価が多い。しかし米国の高成長が、世界最悪の感染状況と引き換えに実現したのであれば、日本が見習うべき姿ではない。

日本の回復力が弱い理由として、西村康稔経済財政・再生相は「マインドがまだ守りの状態にある」と指摘した。その通りなのだが、そのおかげで米国のような爆発的な感染を回避しているともいえよう。そうであれば命と経済の両立という観点からは、日本の方がはるかに望ましい状態にある。

感染がさらに収束して、人々のマインドも攻めに転じて

くるのがベストのシナリオだが、それが待ちきれず、政策の力で無理にマインドを高揚させるのは危険だ。一時的に成長率を高めるかもしれないが、経済活動の無理な活性化は感染リスクを高めることになる。すでに足元では冬に向けて感染が急速に広がっている。ここで欲張って経済のV字回復を目指して感染爆発が起き、経済の腰折れをもたらすことになれば最悪のシナリオだ。

本当に命と経済の両立を求めるのであれば、成長率を高めることだけを考えてはいけない。

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング
研究主幹 鈴木 明彦)